

第1回 道の駅おけがわアドバイザー会議 実施概要

○日 時 平成27年4月15日（水）10時00分～12時20分

○実施箇所 道の駅「（仮称）おけがわ」〈桶川市川田谷4414〉

○出席者

専門家（敬称略）

立正大学 地球環境科学部 教授 伊藤 徹哉

リクルート マガジンビジネス推進部 部長 大橋 菜央

株式会社 意と匠研究所代表、
日経BP社日経デザイン前編集長 下川 一哉

埼玉県 危機管理防災部 消防防災課長（代理） 田中 勉

桶川市 小野 克典 市長

埼玉県 県土整備部 濱川道路環境課長

関東地方整備局 道路部 石川道路環境対策技術分析官
大宮国道事務所 真田事務所長

○実施概要

10:00～ 桶川市 小野 克典 市長 挨拶

桶川市から桶川市や道の駅の企画提案の概要説明等



10:40～ 整備予定地の確認



第1回 道の駅おけがわアドバイザー会議 実施概要

11:20～ 桶川市農業センターにて意見交換（特産品の試食などを実施）



（主な意見）

- 豊富な地域資源をつなぎ、道の駅をその体験・回遊型ゲートウェイとすることに可能性を感じる。
- 飛行機の離着陸を見れて子供が喜ぶエアポートや荒川、農業・酪農と連携しつつ、自転車や徒歩で回りやすくするなど、魅力を高めて行ってはどうか。
- 旅行目的は温泉からご当地でしかできない、食べられないものを体験することに変化。特に500円以下のテイクアウトグルメ等必須アイテムをしっかりと開発する必要がある。
- 「バリアフリー」や「赤ちゃん」「犬」「マタニティ」「三世代」が旅行情報サイトのワード検索で増加。動きにくい方が動き出しており、更に増えていく。これに corres する道の駅を目指してはどうか。
- 平日は地元の方、休日は都心からの日帰り観光を想定するなど、週の中で主な利用者も変化することも意識して進めるとよい。
- 地域活性化の3要素は「人材」「地域財」「即時性」。また、再訪したいと思える資源、種まきと収穫、などを意識すべき。
- 流行への対応力に関しては、硬直化しないよう運営の検証や、若者・現場のアイデアを取り入れる風土の醸成が必要。
- 埼玉県は災害が少なく高速道路網が充実。桶川は埼玉の中央に位置しており後方支援の適正が高い。東日本大震災時に道の駅が果たした役割を踏まえた検討が必要。
- 弱者対応と災害対応は同じことであり、分けて考えるよりオーバーラップさせられるデザインを考えていくべきではないか。

